

教員を地域に派遣、教育と医師確保に貢献◆筑波大学 Vol.1

参加型臨床実習支える「地域医療教育センター・ステーション」

スペシャル企画 2015年8月13日(木)配信高橋直純(m3.com 編集部)

50 km の距離を超えてカンファレンス

「患者は85歳の男性で主訴は発熱。この1年間で3回ほど誤嚥性肺炎の既往があり、体温は、入院当日の午前中37度台。午後には38度台で、SpO2の低下を認め、当院へ救急搬送されました」

7月28日午後6時、筑波大学医学類のキャンパス(茨城県つくば市)と、筑波メディカルセンター病院(つくば市)、大学から50km離れた水戸協同病院(茨城県水戸市)の3病院をテレビ会議システムでつないだ遠隔カンファレンスが開催された。出席者は各病院の研修医が中心で、筑波大からは臨床実習中の5年生も参加した。



3病院をつないで行われた遠隔カンファレンス

この日のテーマは「高齢者の診察で気をつけること」。実際の症例を基に、発表者が治療の段階に応じて問いを投げかける。病院ごとにまずディスカッションし、画面越しにそれぞれの考えを紹介し合った。

テレビ会議システムは、文部科学省から2011年から実施している「グローバルな医学教育認証に対応した診療参加型臨床実習の充実(通称:GP)」に採択された筑波大の「高い実践力を育む大学—地域循

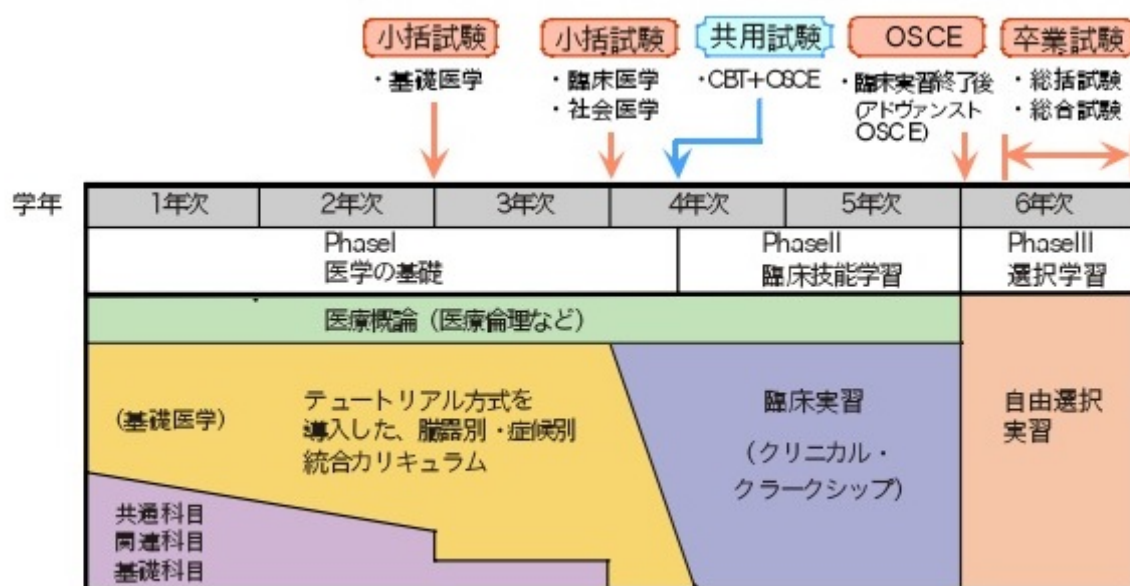
環型臨床実習」プログラムの一環として整備された。研修医、学生らは、同システムを使える病院であれば、どこにいても大学の高度な医療教育、現場の実践的知見を学ぶことができる。

2004年度のカリキュラム改革で導入した本格的な参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)と、2006年から始まった地域の医療機関に大学教員を派遣する「地域医療教育センター・ステーション」。筑波大学地域医療教育学教授で、附属病院総合臨床教育センター部長の前野哲博氏は「筑波大学の教育機能を上手に地域に展開することによって、充実した臨床実習と医師確保に役に立っている」と説明する。

新・筑波方式で臨床実習増加

筑波大医学類では1973年の大学設立当初から、一般教育から専門教育まで6年一貫のカリキュラムで学部生教育を行ってきた。講座制を採用していないこともあり、診療科から独立した「カリキュラム委員会」が臓器・症候別コースごとにカリキュラムを編成。学習者主体の実践的なカリキュラムは「筑波方式」と呼ばれ、医学教育における先駆的な取り組みとして全国の注目を集めた。

しかし、時代の流れとともに、医学の進歩に伴う知識量の増加、患者に対する全人的な診療能力の修得、他職種との連携など、医学教育に求められる内容はますます増加、多様化している。2004年度に導入した「新・筑波方式」と呼ばれる新カリキュラムでは、(1)知識伝達型講義の大幅削減と問題基盤型テュートリアル(Problem-based Learning)の全面的導入、(2)本格的な参加型臨床実習、(3)信頼される医療人として必要な知識・技能・態度を継続して学習する医療概論——の3つを柱とした。



カリキュラム概要図 (提供: 筑波大学)

参加型臨床実習では、旧カリキュラムでは5年次の1年間に2週間ずつ20診療科を回っていたものを、4年次後半から5年次の1年半に延長。フロアユニット制と呼ぶ4~5診療科から構成される7つのユニットを、8週間ずつ実習するシステムに変更した。さらに8週間の地域参加型臨床実習、希望する科を再度選ぶ選択参加型臨床実習を4週×2科、6週間の自習選択実習の計78週で構成している。

教育・地域医療を支える地域医療教育センター・ステーション

地域参加型臨床実習の中心舞台になるのが、筑波大の教員を派遣している地域医療教育センター（中規模以上の病院、派遣教員5人以上）とステーション（診療所および中小病院、派遣教員5人未満）だ。2006年にスタートしたステーション事業は、精力的に地域医療に取り組んでいる診療所を研修ステーションに指定し、専任の指導医を派遣して学生・研修医の地域医療教育の施設にする取り組み。指導医の雇用や教育カリキュラムの導入、学生の派遣などは筑波大が担当する一方で、人件費は県の事業費や寄附金などの外部資金を充てる。大学にとっては地域医療のトレーニングに最適なフィールドを確保でき、医療機関にとっては教育に協力することで診療の活性化と医師確保につながる。

筑波大では毎年、1学年約110人の学生全員が診療所で1週間以上の参加型実習を行う。全学生分の実習先を見つけるのは困難なため、他大学では珍しいカリキュラムだ。前野氏は「それだけ大学と地域が密接に連携している」と説明する。

◆地域医療教育センター・ステーション一覧 ※カッコ内は設置病院

水戸地域医療教育センター（水戸協同病院）

茨城県地域臨床教育センター（茨城県立中央病院）

茨城県小児地域医療教育ステーション（茨城県立こども病院）

ひたちなか社会連携教育研究センター（ひたちなか総合病院）

日立社会連携教育研究センター（日立総合病院・多賀総合病院）

土浦市地域臨床教育センター（国立病院機構霞ヶ浦医療センター）

つくば市バースセンター（筑波大学附属病院）

神栖地域医療教育センター（神栖済生会病院）

取手地域臨床教育ステーション（取手北相馬保健医療センター医師会病院）

北茨城地域医療教育ステーション（北茨城市民病院）

かさま地域医療教育ステーション（笠間市立病院）

里美地域医療教育ステーション（大森医院）

利根地域医療教育ステーション（利根町国保診療所）

大和地域医療教育ステーション（大和クリニック）